

## 在宅医療連携拠点事業成果報告

拠点事業者名：社会医療法人仁寿会 加藤病院

## 1 地域の在宅医療・介護が抱える課題と拠点の取り組み方針について

## 【事業介入前の課題】

- 1) 在宅医療介護推進そのものが課題として共有できていない。
- 2) 事業所間および多職種間等連携の仕組みがない。
- 3) 医療・介護に係る職種の専門性や、役割を関係者がお互いに十分理解できていない。
- 4) 医師会および行政(包括支援センター)の役割が明確でない。
- 5) 在宅医療・介護ができることやその素晴らしさが地域住民に周知されていない。

## 【その課題に取り組む拠点の方針】

- 1) モデル事業の指定タスクにおける成果目標は数値化・可視化する。
- 2) 成果物は1タスク1つ以上残すこととする。
- 3) 地域に「在宅医療連携推進会議」を創設し、この会議を連携に関する課題を共有・解決するための意思決定機関とする。
- 4) 「連携」を5つの因子に分類し、各因子それぞれがもれなく機能することで連携が進むよう、課題解決手法を構造化する。

## 2 拠点事業の立ち上げについて

## 【メンバー選定理由】

・医師：

- ① 医療・介護チーム機能を最大化させるため
- ② 医師会と他の職種との意見交換を円滑にさせるため

・看護師(介護支援専門員兼務)：

- ① 医療と介護のつなぎ役にふさわしいため
- ② 介護サービスの質的向上を図るため

・社会福祉士：

- ① 社会資源の正確な把握が可能のため

② 利用者の声の代弁者であるため

・事務：

- ① 行政との連携を強化させるため
- ② 事務作業を遅滞なく正確に行うため

## 3 拠点事業での取り組みについて

## (1) 地域の医療・福祉資源の把握及び活用

在宅医療連携推進会議(計7回開催)にて、連携を次の5つの因子に分類し(①ミッション②情報共有③垣根を超える④役割分担⑤測る)、それぞれのカテゴリーにおける課題を抽出し解決策を策定、実践しその結果報告を行なった。

## (2) 会議の開催(地域ケア会議等への医療関係者の参加の仲介を含む。)

- ・在宅医療連携推進会議(7回)
- ・川本町地域ケア会議(8回)
- ・美郷町地域連絡会(35回)
- ・包括支援センター部会(2回)
- ・邑智郡医師会(9回)
- ・邑智地域介護支援専門員協会役員会(1回)
- ・邑智病院・訪問看護連絡会議(1回)
- ・邑智郡訪問看護部会(1回)
- ・邑智郡ケアマネ部会(6回)
- ・邑智郡グループホーム、小規模多機能部会(3回)
- ・邑智郡ヘルパー部会(4回)
- ・邑智郡施設部会(1回)
- ・邑智地域在宅医療連携推進会議(1回)
- ・事務部長等連絡会(1回)
- ・病院・高齢者施設のインフルエンザ感染予防会議(1回)
- ・邑智病院との意見交換会・連携事業報告(1回)

## (3) 研修の実施

【将来の人財に対する研修】

- ・初期医師臨床研修地域医療保健プログラム
- ・島根大学地域医療臨床実習
- ・島根県地域病院実習
- ・地域医療実習専門職連携教育プログラム  
(島根大学医学部・広島国際大学薬学部合同臨床実習)
- ・島根県立大学看護学科研修
- ・医療関連専門職病院実習(松江総合医療専門学校作業療法学科、島根リハビリテーション学院・広島医療保健専門学校理学療法学科)
- ・島根大学医学部医学科地域枠推薦医療福祉体
- ・福祉体験実習(川本中学校、川本小学校)

#### 【今働いている人財に対する研修】

- ・多職種同行訪問「相互体験研修リスペクト」
- ・法人内研修のオープン化:認知症に関する研修会の開催・嚙下体操、食事介助の実演、糖尿病の治療薬について学ぶ、ノロウィルスについて(吐物等処置手技体験実習)

#### (4) 24時間365日の在宅医療・介護提供体制の構築

【医療】強化型在宅療養支援病院である加藤病院がその所在する2次医療圏の関係事業所と連携し提供している。また、医療提供体制が脆弱になりがちな介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)において、特に終末期医療の実施を24時間体制でサポートするため、配置医師との間で情報共有を行う文書様式(終末期医療連絡表)を開発し、医師に配布した。

【介護】邑智郡内では、定期巡回・随時対応サービスを提供する事業所が設置されていない。(現在のところニーズは無い)

#### (5) 地域包括支援センター・ケアマネジャーを対象にした支援の実施

- 1) 同一法人社会医療法人仁寿会内にこころとからだの健康増進センターかわもとを開設し、在宅医療介護従事者に対するメンタルヘルス調査の実施、健康相談を受けつける等衛生水準の向上に努めた。
- 2) 在宅医療連携推進会議を開催し、課題を共有し

たうえで支援をおこなった。

- 3) 包括支援センターやケアマネジャーが主催する会議等へ定期的かつ積極的に参加し(どがあですか訪問)、医療的困難事例への助言等をおこなった。
- 4) 安価で一定の情報保護が可能なウェブ会議をデモンストレーションした。今後はウェブ会議を活用しセンター職員、ケアマネジャーを時間管理上支援する。

#### (6) 効率的な情報共有のための取組(地域連携パスの作成の取組、地域の在宅医療・介護関係者の連絡様式・方法の統一など)

多職種間で患者情報を共有するための邑智郡内医療介護連携書式を次のように作成した。

- ① 邑智郡医療介護情報地域連携共有書
- ② 口腔内観察記録票
- ③ 患者(入所者)急変時及び状態連絡表
- ④ 終末期医療連絡表
- ⑤ 医療行為に関する「事前要望書」(同意書)
- ⑥ 邑智郡在宅医療連携ガイドブック(事業者向け)
- ⑦ ご存知ですか?在宅医療・介護(仮称)(利用者向け)

①～③の書式については、HP上からダウンロードでき自由に使用することができる。

⑥⑦邑智郡の社会資源についてのマップやガイドブックを作成し、地域内事業所、住民配付とHP上での公開をおこなう。※⑦については、現在作成中。

#### (7) 地域住民への普及・啓発

下記のように、地域住民に対する啓発は様々な機会を活用して、また、親の介護を担う世代(次代の利用者)へフォーカスした啓発活動として企業の安全衛生委員会において、在宅医療・介護に関するフォーマル・インフォーマルサービスの啓発活動をおこなった。

- ・島根大学公開講座
- ・福祉と医療を考える市民の集い
- ・大田市祖式地区在宅医療講演会

- ・邑智地域の医療を考える
- ・認知症予防介入研究報告会兼在宅医療推進講演会
- ・地域で支えあう在宅医療・介護を考える講演会
- ・邑智郡医師会理事会
- ・(株)ワイテック安全衛生委員会
- ・(社福)吾郷会大和サイト安全衛生委員会
- ・川本町有線テレビ「まげなネット」による社会資源の紹介放送

#### 4 特に独創的だと思う取り組み

- 1) これからの在宅医療を担う人財育成に資する医学教育プログラム  
「田舎で学ぶ専門職連携教育プログラム:RIPEP(Rural Interprofessional Education Program)」の実践  
※別添:在宅医療連携拠点事業に係るプレゼンテーション資料参照。
- 2) 企業の安全衛生委員会における在宅医療・介護啓発活動
- 3) 在宅医療介護従事者に対する産業保健的アプローチによる負担軽減支援

#### 5 地域の在宅医療・介護連携に最も効果があった取り組み

在宅医療連携推進会議・専門職種部会の開催と課題共有ならびに課題解決手法を構造化したことによる効果

- ① ミッションの共有:在宅医療・介護を推進するという根源的ミッションの共有ができた。また、連携に先立ちミッションを共有することの重要性を共有できた。
- ② 情報共有:情報共有のための様式を統一化する良い機会となり、また成果物が複数得られた。また、様々なレベルで様々な事項を共有することができた。
- ③ 垣根を超える:全職種が共通して行うことが可能な口腔ケアを糸口に、これを標準化し、質を高めるためのツールが完成し、また認証制度創設の基盤を作ることができた。
- ④ 役割分担:課題解決の主体を一人称、二人称の

三人称に区分し、責任の所在を明らかにして課題を解決できた。

- ⑤ 測る :事業計画の進捗を常に確認すべく、測定可能な共通の目標値を設定し、統一された活動計画書を用い共有することで、目標の達成に繋がった。

#### 6 苦労した点、うまくいかなかった点

ICTの活用:ネットインフラ(特に携帯電話通信網)が不十分であることや住民の大半がデジタルに不慣れな高齢者が多い事でICTの活用に課題を残した。今後は、デジタル(ICT)とアナログ(講演会等による人を介した情報伝達など)を融合し、地域に合った情報提供体制の構築を行う。

時間管理:事業所に常駐することが本来少ない在宅医療従事者の時間を調整し、負荷をかけずに会議を行うことは困難を極めた。本来すべてこれらを業務として時間内に会議その他が実施されることが望ましい。ウェブ会議開催等時間管理を有効に行うための十分な財務的・人的サポートが望まれる。

#### 7 これから在宅医療・介護連携に取り組む拠点に対するアドバイス

今後も継続して事業所間の顔の見える関係作りと相互支援体制を構築・強化するために、以下の取り組みを提案する。

- ① 定期的な在宅医療連携推進会議の開催(会議には、行政や医師会の参加を求める)
- ② 定期的な専門部会(専門職種部会)の開催
- ③ 専門職が相互に理解するための研修の開催(多職種同行訪問「相互体験研修リスペクト」)
- ④ 医療・介護レベル向上のための公開講座の開催(地域の専門職が自由に参加できる研修会)
- ⑤ 専門職学生の参加
- ⑥ 住民参加
- ⑦ ICTの活用

#### 8 最後に

この事業を通じ、当初の方針に基づき活動した結果、多くの成果を得ることができた。自宅での療養を

希望される方中心の医療・介護を常に心掛けたいと願う地域の事業所関係者の熱意の賜物である。これらの熱意は、この間にひとつとなり強く固い意志となった。私たちは、その意思により連帯を深め、お互いがお互いを尊敬しあい、援けあい、教えあい、学びあう、機能するひとつのチームとなれた。連携とは垣根を越えて行くのだということを改めて実感することができた。また、事業に参加する全国の拠点各所から多くのことを学ぶ絶好の機会ともなった。これらの貴重な経験を生かし、今後も、地域のみならず全国の医療関連他多くの専門職の皆さんと連携して在宅医療介護の推進に取り組みたい。

最後に本事業に参加のうえ様々なご指導、ご協力とご支援をいただいた、邑智郡の介護保険サービス事業所、施設、医科・歯科医療機関、薬局、歯科・医科の医師会、地域包括支援センター、川本町、邑南町、美郷町、島根県ならびに島根県医師会、歯科医師会の皆様に深く感謝を申し上げます。